

令和4年度「未来を創る学力向上支援事業」に係る第1回小学校教科担任制推進協議会(概要)

1. 目的

小学校教科担任制を推進する教員及び市町村教育委員会指導主事を対象に、教科担任制の推進に係る行政説明及び協議を行うことにより、教科担任制の充実と本県児童の学力向上に資する。

2. 主催 大分県教育委員会

3. 日時 令和4年5月12日(木) 13:30~16:05

4. 場所 コンパルホール 多目的ホール

5. 内容

(1) 開会行事

大分県教育委員会あいさつ <義務教育課 課長 武野 太>



(2) 行政説明「小学校教科担任制の推進について」

<義務教育課 学力向上支援班指導主事 田口 昭彦>

- ・大分県では令和元年度に教科担任制を導入し、高学年の国語、社会、算数、理科、外国語の授業を中心に「学級間の交換授業」を行うことを推進してきた。
- ・導入のメリットとして、教科の専門性に基じた授業改善がはかられるものとする。
- ・人員の増加、専門性ある教員の確保、教科担任間の情報交換など、配慮が必要な点もある。
- ・児童質問紙調査の結果からも教科担任制の推進は、効果が大きいと言える。

(3) 取組発表「教科担任制の成果と課題について」

<国東市立国東小学校教諭 岡野 陽子 先生>



- ・スタート時より、担任3人と推進教員で、国語・算数・理科・社会の4教科をそれぞれが担当してきたが、今年度は理科を専科教員が担当することとなり、国語・算数・社会の3教科の担当をするようになった。
- ・高学年に教科担任制を導入するタイミングで学年部制を強化し、担任にとっても、児童にとっても相談しやすい環境が構築されている。
- ・念入りの教材研究やノートチェック、教科の系統性を意識した授業ができるようになり、多くの目で生徒指導ができるようになった。

<豊後大野市立三重第一小学校教諭 高山 浩昭先生>

- ・専門性が生かせるよう、年度当初に全職員に向けて方針を打ち出し、共通理解をはかり、急な時間割の変更等は推進教員が対応を行う。
- ・中学校との連携がスムーズに行えるようになった。
- ・成果として、①教師の専門性による学習指導の充実②組織的・協働的な生徒指導の充実③教員の働き方改革、課題として、①移動・準備・片付けの時間確保②生徒指導上の情報交換③時間割作成等がある。



(4) 情報交換及び協議 「教科担任制導入の課題及びその解決方法等について」



- ・「教科担任制導入の課題及びその解決方法等」について簡潔にまとめたシートを各自が持ち寄り、それを説明しながら協議を深め、有効な解決方法について模索。

(5) 閉会行事